

January 18, 2021

【前日の為替概況】ユーロドル、下落 欧州景気の先行きに不安

15日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは下落。終値は1.2082ドルと前営業日NY終値(1.2155ドル)と比べて0.0073ドル程度のユーロ安水準だった。欧州では新型コロナウイルス感染拡大抑制に向けたロックダウン(都市封鎖)の延長や制限措置の強化が相次いで実施されており、欧州景気の先行き不安が高まった。イタリアの政情不安定化に加えて、児童手当の不正受給問題を巡る連立政権内の対立を理由に、オランダのルッテ内閣が総辞職する見通しとなったこともユーロ売りを誘った。前日の安値1.2111ドルを下抜けて、一時1.2075ドルと昨年12月10日以来約1カ月ぶりの安値を付けた。なお、エストニアでもラタス首相が中道左派与党・中道党の汚職疑惑の責任を取る格好で辞意を表明している。

ユーロ円は6日続落。終値は125.56円と前営業日NY終値(126.17円)と比べて61銭程度のユーロ安水準。欧州政治の相次ぐ混乱を嫌気してユーロ売りが先行。株安に伴うリスク回避の円買いも入り、一時125.41円と昨年12月1日以来約1カ月半ぶりの安値を付けた。なお、ダウ平均は一時370ドル超下落したほか、ナイト・セッションの日経平均先物は日証終値比320円安の2万8140円を付ける場面があった。

ドル円は小反発。終値は103.85円と前営業日NY終値(103.80円)と比べて5銭程度のドル高水準だった。米国株安を背景にリスク・オフのドル買いが入り、取引終了間際に一時103.91円と日通し高値を付けた。ただ、同時にリスク回避の円買いも入ったため上値は限られた。今日一日の値幅は29銭程度と小さく、方向感に乏しかった。市場の注目を集めていたバイデン次期米大統領の経済対策は総額1.9兆ドルの大規模な内容となったが、事前に2兆ドル規模になるとの観測が出ていたこともあり、サプライズはなかった。

なお、22時30分発表の12月米小売売上高や1月米ニューヨーク連銀製造業景気指数は予想より弱い内容となったものの、反応は一時的だった。

資源国通貨は軟調だった。米国株相場下落を背景に、リスク・オフの円買い、ドル買いが優勢となった。豪ドル米ドルは一時0.7682米ドル、豪ドル円は79.72円、NZドル米ドルは0.7119米ドル、NZドル円は73.88円まで値を下げたほか、米ドルカナダドルは1.2765カナダドル、カナダドル円は81.32円までカナダドル安に振れた。

【本日の東京為替見通し】ユーロ中心の動きか、独CDU新党首が欧州政局不安を解消するか

本日のドル円もレンジ取引となるか。先週1週間のレンジは、週初に104.40円まで上昇した後は、下値は103.53円までで、103円半ばは週後半に下値トライも3日続けて割り込むことができなかった。今週も先週のレンジを若干更新することがあったとしても、当面は大きくレンジを超えることは難しいと予想する。

ドル円が堅調地合いを保てそうなのは、今週20日正午から就任する第46代バイデン米国大統領の新政権が、財政拡大路線へ進むとの期待が主要因になる。先週後半は材料出尽くし感で利回りは若干下がったが、依然として米10年債利回りが1.08%で引けるなどなど、米金利が堅調地合いを維持していることはドルのサポートとなる。

その反面で欧米での政治リスクの高まりが避難通貨としての円買いにつながり、ドル円の上値を抑えていることで、ドル円は一方方向に動きにくいだろう。

ユーロドルは引き続き上値が重い展開が予想される。先週1週間でイタリア、エストニア、オランダなど各国が相次いで内閣崩壊危機や総辞職などに直面し、ユーロ売り・ドル買いになった。この流れが継続する可能性は高いが、唯一の安心材料となったのは16日に独与党・キリスト教民主同盟(CDU)の新党首にメルケル路線と同じ中道派のラシェット氏が選出されたことだ。この結果がユーロの一定の支えとはなるか本日の欧州勢の動きを確かめる必要があるようだ。

また、週末のファイナンシャル・タイムズ(FT)紙が、米国による制裁(最近では中国やイラン、ベネズエラなどに対して)や金融リスク(中国企業のNY証券取引所上場廃止など)が、今後EUなどにも波及することに備えて、欧州連合(EU)がユーロの国際的役割の強化を計画しているとの報道により、ドル売り・ユーロ買いを促す可能性もある。

欧州の政治リスクだけでなく、今週は米国の国内リスクにも要警戒となる。20日の米大統領就任式前後にかけて、全米50州とワシントン特別区へトランプ支持者および極右がテロを企てているとの報道が

流れている。先々週の米議会への暴徒乱入の反省により、全米各地で厳格なテロ対策が行われているが、混乱を避けることができるかは不透明だ。また、明日 19 日には次期財務長官に指名されたイエレン氏の公聴会も予定されていることで、公聴会内容で為替市場が急な値動きをする可能性もある。なお、米「ウォールストリート・ジャーナル」紙によると、次期財務長官候補のイエレン氏は、公聴会で「ドル安を志向しないだろう」との記事を掲載している。

本日は東京時間午前には中国の国内総生産（GDP）が発表されるが、コロナ以降は各国の対中関係が悪化していることで、中国の指標で主要通貨が反応するのは難しいか。また、米国はキング牧師誕生日のため休場になることで、NY 時間は市場の値動きを狭めることになりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 13:30 ◇ 11 月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 11 月設備稼働率

<海外>

- 09:01 ◇ 1 月ライトムーブ英住宅価格
- 11:00 ☆ 10-12 月期中国国内総生産（GDP、予想：前期比年率 3.2% / 前年同期比 6.1%）
- 11:00 ◎ 12 月中国鉱工業生産（予想：前年比 6.9%）
- 11:00 ◎ 12 月中国小売売上高（予想：前年比 5.5%）
- 22:15 ◇ 12 月カナダ住宅着工件数
- 22:30 ◇ 11 月対カナダ証券投資
- 22:30 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- ユーロ圏財務相会合
- 米国（キング牧師誕生日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

15 日 10:43 NZ 準備銀行(RBNZ)

「今週のサイバー攻撃で重大なデータ流出が起きた」
「ニュージーランドの金融システムと金融機関は引き続き健全」

15 日 11:36 李柱烈・韓国中銀総裁

「本日の政策金利の据え置き決定は全会一致」

15 日 16:28 中国人民銀行副総裁

「2021 年の金融政策は経済の復興に必要な供給を行う」
「金融政策は安定性を優先させ、急な変更はない」

15 日 19:37 独政府報道官

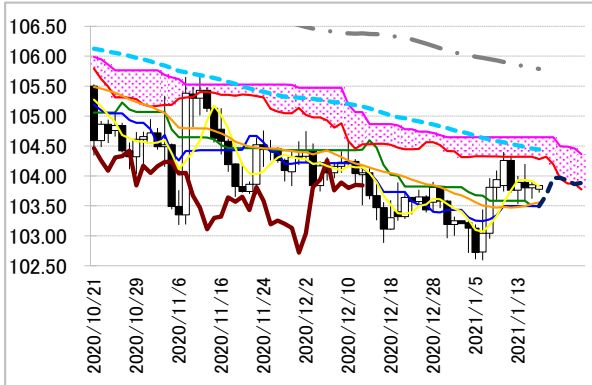
「メルケル首相と州知事は来週火曜日にウイルス規制について話し合う」

16 日 03:11 ローゼングレン米ボストン連銀総裁

「バイデン次期米大統領の 1.9 兆ドルの経済対策は大規模だが、適切」
「完全雇用に近づくにつれて、財政政策は厳しくなると予想」
「経済を支えるためにはさらに行動する必要」
「今の財政政策と金融政策の組み合わせは適切」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

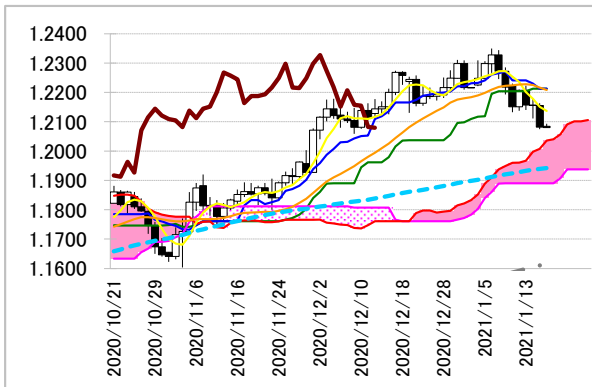


<ドル円＝転換線の動きに沿い雲を試す展開予想>

下影小陽線引け。103 円台で次第に値幅を縮小しつつある。次に動き出すエネルギーを溜めている状況といえよう。

動意の方向は見定めにくい、下押ししても一目均衡表・転換線と基準線が位置する 103.50 円前後で下押し抑えられそう。今後の上昇が見込まれる転換線の動きに沿って、一目・雲の下限を試す展開を予想する。

レジスタンス 1	104.28(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	103.85
サポート 1	103.50(日足一目均衡表・転換線および基準線)
サポート 2	102.95(1/7 安値)

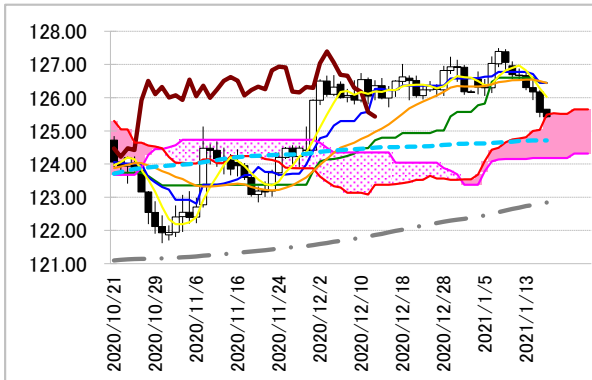


<ユーロドル＝雲上限まで、まだ多少の下げ余地>

陰線引け。14 日に長めの下ひげを形成して下げ渋った際の安値 1.2111 ドルが目先の下値のポイントになるとみていたが、同水準を割り込んで 1.2075 ドルまで下落した。

サポートが期待される一目均衡表・雲の上限は現在 1.2036 ドルに位置。まだ多少の下げ余地を感じさせ、不安定な相場つきが想定される。雲の上限は 1.21 ドル台まで徐々に上昇するため、次第に下値は堅くなってくるとみる。

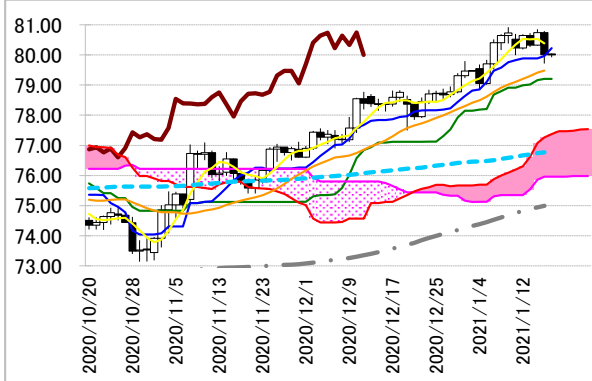
レジスタンス 1	1.2136(5 日移動平均線)
前日終値	1.2082
サポート 1	1.2036(日足一目均衡表・雲の上限)



<ユーロ円＝雲上限の攻防>

陰線引け。年末から年始にかけて下げ渋った 126 円付近を割り込んで下落に勢いがついた。昨年 12 月 1 日以来の安値 125.41 円まで下値を広げている。日足一目均衡表・雲の上限が本日 125.49 円へ切り上がっており、同水準の攻防となる。ここを下抜けると、125 円の節目を試すことになるか。

レジスタンス 1	126.02(5 日移動平均線)
前日終値	125.56
サポート 1	124.92(ピボット・サポート 2)



<豪ドル円＝転換線を下回って週の取引をスタート>

下影陰線引け。先週末は 79.97 円に位置した一目均衡表・転換線を下回る水準で底堅さを示し、80 円台を回復して週を引けた。本日 80.23 円へ切り上がった転換線を下回って今週の取引をスタートしている。下値を試す可能性があるものの、79.55 円前後で上昇中の 21 日移動平均線や、一目・基準線 79.21 円が下値を支えるとみる。

レジスタンス 1	80.62(ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	80.01
サポート 1	79.55(21 日移動平均線)

